

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

統合報告書に今後の方向性として「サービス」の追求と、「まだ見ぬ、Life & Time Developer へ」の実現を目指すことが明確に示されていた。「サービス」は、お客様に価値を提供することを意味し、「まだ見ぬ、Life & Time Developer へ」は、住宅やオフィスなどの「ハード」の開発だけでなく人々の Life や Time という「ソフト」の部分まで開発に取り組んでいく方向性を示している。

総合報告書では、Life & Time Development の一つとして既に取り組みを始めている武蔵浦和エリア全体のコミュニティ活性化の事例が取り上げられていて、実際に目指すべき方向性に向かって動き始めていることが確認できた。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

野村不動産ホールディングスが考える「マーケットイン発想」、「グループの事業連携・価値創造」、「品質へのこだわり」、「新たな領域への挑戦心」という4つの競争優位性についてそれぞれ図表などを用いて分かりやすく説明されていた。

一方で、これらは競合優位性というよりも野村不動産ホールディングスの「強み」を説明しているように受け取ってしまう。他社と比較して初めて競争優位性だと思うので、その点で競争優位性の説明にはなっていないように思われる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

例えば、競合優位性の一つである「マーケットイン戦略」は将来的な予測を加味したうえでの住宅用地の取得であり、時代の変化に合わせたニーズの変化に対応した戦略であると考えられる。また、行政との長期的な信頼関係の構築という点にも言及している。ゆえに、将来的な予測が正確な限り、この競争優位性に持続性があると判断できる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

人的資本の価値向上のため、「適所適材」につながる人材の確保や育成および「環境整備」につながるウェルネス、ダイバーシティ&インクルージョンの各施策を講じることを明示している。実績こそ書いていないものの、適材適所や環境整備に係る具体的な施策や取り組み方針は記載されているため、人的資本の価値向上を達成することが可能であると考えられる。

## 5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

良かった点は統合計画書の構成であり、改善余地がある点としては定量的データが少ないことである。前者に関して、どこに何が書いてあるか、このページでは何を伝えたいのかといった内容が一目でわかり、読みやすかった。後者に関して、例えば、前述した人的資本における過去の定量的データや実績を取り入れることで主張の説得力が増すと思う。